

情報連絡員報告総括表（令和3年7月分）

三重県中小企業団体中央会  
 連絡員総数 40名  
 回答数 40名（100%）

業界の景気動向（前年同月比）

	売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>（臨時・パートを含む）</small>			業界景況							
	増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化					
製 造 業	食料品		2	2	2	2		1	3			3	1			4		3	1		2	2		3	1			4				
	繊維工業		1	2		3			3			2	1		2	1		1	2		3			3			1	2				
	木材・木製品	1					1	1			1			1				1		1				1		1						
	紙・紙加工品			2		1	1	1	1		1	1			2			2			1	1		2			2					
	印刷		1			1			1			1			1			1			1			1			1					
	化学・ゴム																															
	窯業・土石製品	1	1	1		3			3			3			3			3			3			3			3					
	鉄鋼・金属	1				1			1			1			1			1		1			1			1						
	一般機器	1	1	1		2	1	1	2			3			1	1	1	1	2		1	1	1	1	2		1	1	1			
	電気機器			1			1			1					1				1			1		1				1				
	輸送機器	1					1		1			1			1			1			1			1			1					
その他																																
小計	5	6	9	2	13	5	4	15	1	2	16	2	2	11	7	2	14	4	4	11	5	3	16	1	4	8	8					
非 製 造 業	卸売業		2			2		2			2			1	1		2		X				2			1	1					
	小売業		4	2	1	5		2	4		5	1		3	3		2	4							6			1	2	3		
	商店街			1		1			1			1			1			1								1				1		
	サービス業	1	3	1	X			1	4			5			4	1		4				1				4	1		4	1		
	建設業	2	2						1	3			4			4						4						4			4	
	運輸業		1							1				1			1						1					1			1	
	その他	1										1			1			1						1					1		1	
小計	4	12	4	1	8		4	16			19	1		14	6		14	6				19	1	2	12	6						
合計	9	18	13	3	21	5	8	31	1	2	35	3	2	25	13	2	28	10	4	11	5	3	35	2	6	20	14					

## 最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和2年7月～令和3年7月)

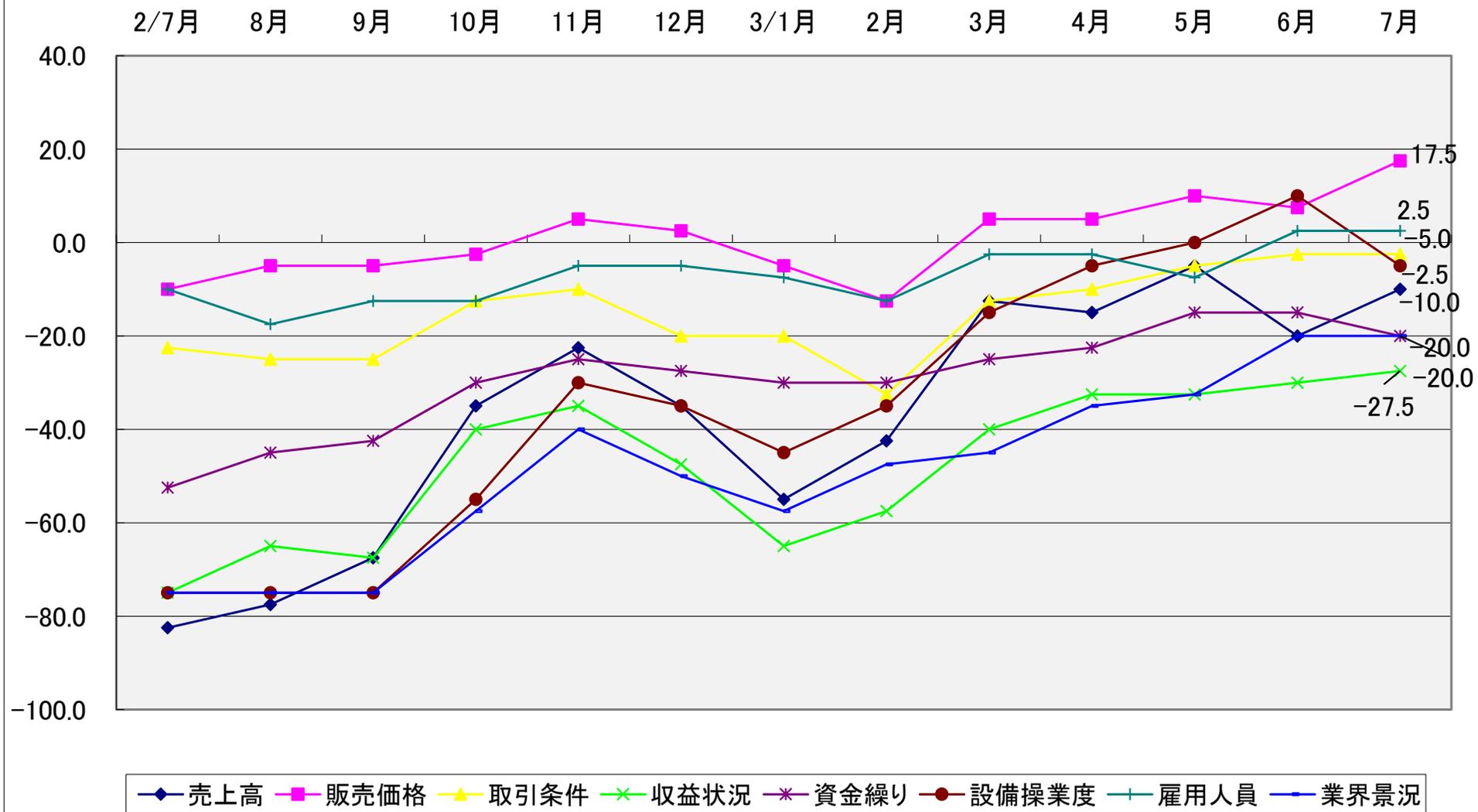
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40 名

	2/7月	8月	9月	10月	11月	12月	3/1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	増減
売上高	-82.5	-77.5	-67.5	-35.0	-22.5	-35.0	-55.0	-42.5	-12.5	-15.0	-5.0	-20.0	-10.0	10.0
販売価格	-10.0	-5.0	-5.0	-2.5	5.0	2.5	-5.0	-12.5	5.0	5.0	10.0	7.5	17.5	10.0
取引条件	-22.5	-25.0	-25.0	-12.5	-10.0	-20.0	-20.0	-32.5	-12.5	-10.0	-5.0	-2.5	-2.5	0.0
収益状況	-75.0	-65.0	-67.5	-40.0	-35.0	-47.5	-65.0	-57.5	-40.0	-32.5	-32.5	-30.0	-27.5	2.5
資金繰り	-52.5	-45.0	-42.5	-30.0	-25.0	-27.5	-30.0	-30.0	-25.0	-22.5	-15.0	-15.0	-20.0	-5.0
設備操業度	-75.0	-75.0	-75.0	-55.0	-30.0	-35.0	-45.0	-35.0	-15.0	-5.0	0.0	10.0	-5.0	-15.0
雇用人員	-10.0	-17.5	-12.5	-12.5	-5.0	-5.0	-7.5	-12.5	-2.5	-2.5	-7.5	2.5	2.5	0.0
業界景況	-75.0	-75.0	-75.0	-57.5	-40.0	-50.0	-57.5	-47.5	-45.0	-35.0	-32.5	-20.0	-20.0	0.0

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする  
企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

### 最近の主要指標の前年同月比DIの推移



## 情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	漬物	原料用野菜は順調な入荷となっているが、生産者の高齢化と後継者不足により、一部業者の中では、漬物原料野菜の供給不足が続いている。そのため、伝統的な漬物においても原料不足のため、代替原料による新たな商品開発の試みが行われている。また販売状況においても、コロナウイルスに関わる外出自粛の影響により、駅、土産物店等でお土産物の漬物の販売及び外食産業での需要が更に減少している。今年度は昨年からのコロナ禍の影響で売上の減少や相次ぐイベントや事業の自粛が続く中、多気町に大型商業施設がオープンし、新たなショッピングセンターへ当組合員が新規出店した。
	醤油味噌	県内、国内は低迷が続いている。輸出については5月は伸びた。(全国の近況は不明である。)10月1日は醤油の日記念「ふるさとのしょうゆプレゼント!」を今年も実施する。9月中旬以降に「しょうゆ情報センター」のホームページを見れば、申込が可能である。
	豆腐	外食産業への食材としての豆腐油揚げの納品は、少しずつ戻りつつあるが、コロナ禍以前と比べるとまだまだである。
	製麺	飲食店からは8割~9割程、注文が戻ってきた。観光関連は、まだまだ厳しい状況ではある。新たに多気町に大型商業施設VISONが7月20日に全面オープンし、素晴らしい体験型の観光施設として、将来性のある次世代リゾートだと体感した。このように当組合でも新しい取組みにチャレンジしていく。
繊維工業	衣料縫製	コロナ禍の中、厳しい状況は続いている。まだまだ感染者が増える中、売上の見込みが読めない状況である。
木材・木製品	木材	ウッドショックによる影響はやや落ち着いてきた感はあるが、国産材に対する需要は依然として旺盛で、前年同月比では原木、製品ともに高値で推移している。
紙・紙加工品	紙器段ボール	梅雨明けの猛暑で、飲料関係や冷夏食品の段ボールの動きが伸びている。電機関係の動きが正常に戻らず、相対的には生産量は前年対比で同じか、少し減少である。
	古紙	7月期の古紙仕入量は：段ボール・約98±5%、新聞、チラシ・約96±8%、雑誌・雑がみ、その他を合わせて約97±5%の模様である。コロナ禍の巣ごもり需要のある店と取引が多い組合員は、段ボール古紙の集荷が前年より多い様である。新聞雑誌古紙も集団回収等の中止の影響で前年に近い量で集荷されているが、前々年比からすると約▲25±10%の集荷量になっている様である。アジア圏の紙・板紙の需要はコロナ過でも増加傾向にある様で、古紙の輸出価格も値上がりし、国内価格以上になった様である。資源物回収所のゴミの置き去りは無くなり、古紙の持ち去り行為も平気で行われ注意しても言い返される様である。
印刷	印刷	7月中旬から急激にコロナ感染が増加し、夏から秋のイベントの開催が危ぶまれる。不安定な受注は、中止になった場合そこの作業料のみの売上になるケースが多い。
鉄鋼・金属	鍍金	当業界の生産額は6月同様増加傾向が続いており、自動車関連部品、建築関連部品、ガス関連部品、電気関連部品とほとんど全ての物が好調である。特に半導体関連部品はかなり好調で、それに伴い人材不足は継続しており、人材派遣に依存している面が大きい。暫くはこの状況が続きそうである。
一般機器	四日市	コロナ感染症が終息を見せぬ中、当組合員は各社各様の努力により、業績確保に苦心している。人流も停滞気味で本来の企業活動ができないが、前年よりは回復傾向にある。
	津市	先月と同じく、昨年の受注減の影響が大きかったため、昨年同月よりは増加した。また、材料価格が高くなってきており、販売価格も上昇となった。依然として半導体不足のニュースはあるが、中小企業まではまだ影響は出ていない。しかし、材料の入手は遅れが少し増えてきているのが気になるところではある。
	伊勢	東京オリンピックが始まり、時を同じくして感染拡大が急速に広まった。オリンピック・パラリンピックが終われば入国制限も解除され、海外との人の動きも緩和され、物の動きも活性化されると思っていたが、それらも見込めなくなった。設備操業度が落ちているので、設備投資も見込めない。
電気機器	鳥羽	上半期の下期になるが状況は好転もせず、受発注の少ない中でやりくりしている。雇用調整助成金制度を利用しながら、踏ん張っている。

## 情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
	輸送機器	鈴鹿 コロナウイルスの第1波の影響で大幅な減産を強いられていた昨年と比べると稼働率は上昇しているが、例年に比べるとまだ低迷している。メーカーからは下期の計画数はかなりの増産になると伝えられている一方で、8月は部品の供給不足により10日間しか稼働できないという現実もあり、先が見通せない。	
非 製 造 業	青果	野菜前半:レタス、白菜、キャベツ等の葉物類の安値が続いているが、雨の影響で入荷量が減る見込みのため、今が安値でお買い得である。なすびも値下がりしてきた。トマト、ミニトマトは北海道産からの入荷が増え、やや安くなってきた。野菜後半:干ばつの影響で長野産のキャベツ、レタスの入荷が減少し、値上がりしている。大根は北海道、青森等からの入荷が多く、値下がりしている。しめじ、エノキ、エリンギ、長野産のキノコ類がお値打ちである。果物前半:全体的には少ないが、お中元需要が活発になってきた。スイカは新潟産、石川産がお値打ちである。桃は愛知産、山梨産、山形産の入荷が増えているが、価格は高値である。メロン類は青森産、北海道産が美味しい。果物後半:山形産のスイカが順調に入荷している。ハウスみかんはお中元に人気で味も最高である。桃は長野産が増えてきたが、高値が続く。メロンについては青森産のタカミメロンが糖度が高く、お買い得である。	
	自転車	この業界は個人経営が多く、コロナウイルス感染の可能性は少なく、営業にはさほど影響が及ばないものの季節に大きく左右される。梅雨明け後の猛暑により、街ゆく自転車も例年より少なく感じられた。夏の大輪祭と名うって、卸、小売とも拡販を期待しつつも昨年を上回る事はなく、各ショップは低調な売上となった。今後学校は夏休みとなり、益々期待できない状況が続くものと思われる。部品メーカーであるシマノ製品に至っては、引き続きヨーロッパ需要により、順調な伸びを示している。(株)シマノは昨年より大幅な黒字となった。	
	小売業	電器	7月の販売はほぼ前年並みであった。梅雨明けも早く猛暑が続いたが、商品としてはエアコン・冷蔵庫の販売が苦戦した。また、オリンピック開催で4K・8K対応のテレビも前年は上回るが、全体の販売を引き上げるまでではなかった。昨年は特別定額給付金の効果もあり、エアコン・冷蔵庫等の買替が大きく需要を牽引し販売に貢献したが、7月は逆に特需のマイナス要素が顕著になった。猛暑の中だが夏物商品中心の需要が落ち込み厳しかった。テレワークや巣ごもりと新たな環境にも敏感に対応してきたが、その反面、耐久品であるため、販売を引っ張った好調商品の販売苦戦が目立っている。その他洗濯機・空清関連商品もコロナ対応の助成金が終了するとの事で伸び悩んだ。コロナ禍の中で訪問活動を控えていることもあり、催事のあり方も変わってきている。催事に工夫と手間をかける店とそうでない店の販売格差が大きくなり、二極化が進んでいる。在庫は実需とのタイムラグがあるので増えつつある。長引くコロナ禍の中需要の低迷が厳しさを増し、今後の見通しは非常に厳しい状況が予想される。さらに店主の高齢化による販売ダウンが課題で、業界の中でも地域電器専門店はこの課題への対応・解決が大きな問題となっている。
	石油	レギュラーガソリンの小売価格が原油の上昇を受け、全国平均で150円台と高値を続けている。一般財団法人日本エネルギー経済研究所によると、しばらくはこの高値が続くとの事である。また、ガソリン等の需要が低迷している中、「脱炭素化」への動きが大きく進んでいる。ガソリンを燃料とする自動車(内燃機関)においては電気自動車(EV)化が世界的に進む中、ドイツ自動車大手ダイムラーは2030年にも「メルセデスベンツ」のすべての新車をEV化すると発表した。主力市場の欧州連合(EU)では35年にもガソリン車の販売が禁止されるとの事で電動化が加速される。我々SS業界が生き残るため、EV化以外の燃料としてのカーボンニュートラル化(e-fuel, 水素等)の開発に国費を投じていただくことを切に望むものである。	
	スポーツ	無観客でのオリンピック開催が始まった。コロナも心配であるが、完全なまん延防止対策をして、定員の半分位を入れての運営であれば、もっと盛り上がったのではないかと思ひ、残念でならない。学校のクラブ活動の指導もそうであるが、筋が1本抜けてしまった様に思う。外に出るなど言われたら、出てはいけないのである。他の浮かれた節操のない人達のために選手がかわいそうである。オリンピックのおかげで、これから少し上向きになってくるのではないだろうか。国体も開催される様に祈っている。	
商店街	熊野市	初旬から中旬については感染状況の落ち着きもあって徐々に売上の方も戻りつつあったが、中旬以降の感染状況が増加していくことの影響もあって、減少傾向にある。繰り返される感染拡大は観光関係にとって、相当ダメージを与えている。	

## 情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
サービス業	旅館	感染拡大が収まらず、様々な規制が発出された事から、月初より中旬までは先月同様に閑散とした日が続いていたが、3連休から夏休みにかけては、例年の夏シーズンに近い盛況となった。昨年は7月22日に「Go toキャンペーン」がスタートした事がきっかけとなり、夏の予約が伸び、今年の夏の予約状況についても昨年より好調のようである。これはお客様が夏休みに子供を喜ばせたいとの親の気持ちが強く、三重県民割等の利用により県内のお客様とリピーターのお客様を中心に7月20日以降は一昨年に近い集客であった。
	測量	仕事柄、コロナウイルス感染の可能性は少なく作業には影響はない。官庁からの発注量は例年並みで、ほとんどの組合員の各社は受注がある。
	警備	昨年よりもコロナの影響が大きく、花火大会等のイベントの中止も多くあり、売上減となっている。
建設業	総合工事業	令和3年度第1四半期の三重県内の公共工事の発注状況は、対前年度同月比15.2%増であり、三重県内の建設企業の受注状況も対前年度同月比17.6%の増であった。国機関及び三重県が発注する公共工事では、県内の建設企業の受注高が対前年度同期比の約30%増となっており、令和2年度補正予算を財源とする工事を県内の建設企業は順調に受注できたものと考えられる。これに対し、市町発注工事の発注量は、約20%の減少であり、今後の発注状況に注視していく必要がある。
	内装工事業	7月は対前年同月比で増加となった。これは前年同月の値が低いため、コロナの影響は今後も続き、減少傾向は続くと思われる。
	水道工事業（亀山）	前月に続き、資材の入手が困難な状況が続いている。特に民間の受注に不安を感じている。
運輸業	トラック	燃料価格は依然高値で推移している。電子部品、デバイス関連の輸送は引き続き伸びている。化学、プラスチック関連の輸送は増加に転じたものの、自動車関連の輸送は半導体不足により、工場の稼働が一時停止になった影響により、依然として厳しい状況下にある。スーパー関連の輸送は食料品部門が減少した。住宅関連、公共工事の請負件数が3ヶ月連続で増加となった事から、関連する輸送も増加傾向にある。

## 行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	製麺	組合活動ができていないが、今後の様子を見て活動を再開していくので、よろしくお願いたします。
一般機器	四日市	政府の施策が見えにくい。ワクチン接種の遅れ、医療体制のひっ迫が懸念される。
小売業	スポーツ	6月30日が決算である。今、資料の整理と決算書の作成に入っている。また、面倒をかけますが、宜しくお願いします。
サービス業	旅館	夏休み以降の9月の集客は、昨年より下回っている。県が実施している県内旅行割引等も8月31日に終了する事もあり、見通しの立たない状況にある。県内旅行割引事業の継続を強く望む。
	測量	後継者を育てていただきたい。組合員各位の緩やかな成長を望んでいる。